

自給自足のむらへ

子どもたちに伝えたい—夢膨らむ

遊休荒廃農地を 三沢で有効活用

区民農園拡大

「遊休荒廃農地に区民農園を広げ、ヤギを飼って、みそ、そばを手作り。自給自足、地産地消のむらにしたい」。昨年、市内初の区民農園を開設した三沢区(山之内寛区長)で、こんな夢が語られている。食料自給率が低下し、食の安全の問題から、農業が見直されているなか、夢の一步前進に向け、同区は今年、区民農園の拡大に取り組む。

今年収穫の 野菜を販売へ

まき販売
既に開始
高齡や仕事の都合な
とで休耕し、やぶと化
して荒れる一方の遊休
荒廃農地が増えている
同区。この有効利用を
狙い、区は昨年九月、
農家から借りた遊休農
地に、市内初の区民農
園を開設した。広さは
四百五十平方メートル

四区画あり、十人が協
力して、大根、白菜、
キャベツ、ネギ、ソバ
など秋野菜を中心に作
った。ソバは二十キ取
穫し、そば打ちもした。

100年前の棚田 取り戻して地 域に合う食を

区には、農地の寄付
を申し出る人もあり、
五カ所に約六千平方
メートルの遊休農地が、用地と
して確保されている。
なかには、かつて秋に
なると斜面が黄金色に
輝いたといわれる棚田
も。開設に当たっては、
区内にあるNPO「農
と人とくらし研究セン
ター」(片倉和人代表)
とも連携。農作業が初
めての人には区内の農
家が講師となり、指導

一昨年四月、郷土の
三沢に、「農と人くら
し研究センター」を設
立し、岡谷から世界に
向け農業の大切さと暮
らしのかわりにについ
ての情報を発信し続け
ている同センター代表
の片倉和人さんは、
「棚田があった百年前
の地図が未来のビジョ
ン。地域に合ったもの
を食べるのが大事で、
これまでに失ったもの
を取り戻していくこと

がわたしたちのビジョ
ンになると思う」と話
し、側面から区民の取
り組みを支えていきたく
考えた。

区の取り組みに 市も注目

遊休荒廃農地の有効
活用した区民農園の取
り組みは、「耕作者の高
齡化とともに市内で
も遊休農地が増えてい
るなかで、三沢区の取
り組みはモデルケース
になると思う」(涌井
秀俊市農林水産課長)
と、岡谷市でも注目し
ている。

楽しい夢が次々と

- 大豆育ててみそを手作り
- ヤギのミルクでチーズ作り
- 生系のまちから桑の葉青汁や桑の実ジャムをネット販売

さらに、区民農園拡
大後の将来に向けて区
民は、「大豆でみそ造
りや、そば打ちもした
源研究所や市、農改善

及センターなどの指導
をいただき、区内に多
い桑の葉を青汁やお茶
にしたり、桑の実をジ
ャムにして、ネット
全国に向けて販売。生
糸業発祥の地として売
り出したい」と、夢を
大きく膨らませている。



三沢区に昨年開設された区民農園。今年さらに拡大させる計画だ